

< 6/20数値修正版 >

## 2007年3月期連結決算について

---

2007年5月31日  
日本板硝子株式会社

(以下、今回の説明会でのご説明内容を記載してまいります)

## 本日のご説明項目

---

- 07年3月期の振り返り
- 07年3月期決算の概要
- 新NSGグループの概要
- 各事業別の概況と今期の見通し
- 中長期戦略の中での位置づけ
- 今期の業績見通し

(本日のご説明項目です。)

## 07年3月期の振り返り

1. ピルキントン社買収による第2四半期以降の同社連結化。  
当社事業規模が大きく変化。
2. 昨年11月、今後10年の3フェーズ長期ビジョンと  
向こう4か年の新中期計画を策定、公表。
3. 今年4月より、両社組織の統合化が予定通りスタート
4. 一過性の特損特益処理のほか、EU過料引当等による、  
業績予想の修正。
5. グローバル規模での板ガラス事業の力強い成長と  
好調なビジネス環境は、依然として継続

まず、終わった07年3月期の1年間の主なポイントを  
申し上げます。

まず第1に、ピルキントン社の買収を昨年6月に完了したこと、  
第2四半期以降、同社を連結化したことで当社の事業規模が大きく変化し  
ました。

第2に、昨年11月、今後10年の3フェーズ長期ビジョンと、向こう4か年  
の新中期計画を策定し、公表しました。

第3に、今年4月より、両社組織の統合化が予定通りスタートしたこと。

第4に、一過性の特損特益処理のほか、EU過料引当等による、業績予想の  
修正を行いました。これについては、投資家の皆様に大変ご迷惑をかけ、  
誠に申し訳なく思っております。詳細については、このあと引き続き、経  
理部長の小柴よりご説明します。

そして第5として、言えることは、グローバル規模での板ガラス事業の力  
強い成長と好調なビジネス環境は、依然として継続していること。

一過性の損失などはありましたが、ビジネス環境は好調であるため、今後  
に期待していただきたいと思っております。これについてのご説明は  
決算の説明に引き続き、今期の見通しとあわせてご説明いたします。

## 2007年3月期決算の概要

---

それではまず、本決算の概要についてご説明します。

## 07年3月期決算の前提

1. 損益計算書ベースでは、ビルキントン社は第2四半期から連結化。  
貸借対照表ベースでは、第1四半期末から連結化。  
08年3月期は、ビルキントン社業績がフルに寄与。(添付参考資料)
2. これによる当期からの事業別、所在地別セグメントの変更 (添付参考資料)
3. 買収完了後のビルキントン社B/Sの再評価と、これによる  
暖簾代(営業権)、無形固定資産の計上および償却。加えて、  
EU過料引当額の買収完了時点(06/6末)価値を暖簾計上し、償却。  
(添付参考資料)
4. 豪州地域については、非継続事業会計処理し、特別利益に表示。
5. ビルキントン社P/Lの連結反映時の円ポンド換算為替レート  
中間、3Q時：各決算期末のレートによる期初からの損益業績の換算  
(中間決算時レート 221.25円、3Q決算時レート 233.7円)  
今回の本決算以降：期中平均レートによる換算  
(06年7月～07年3月の間の平均レート 225.7円)  
07/3期・当初計画前提レート 210円、08/3期計画前提レート 215円



まず、今回の決算については、ご承知の通り、異例づくめであり、ここに記載してある前提としての変化があります。

(詳細説明として、参考資料 P. 38へ)

連結損益計算書

(単位:10億円)	06/3	07/3	前期比	07/3 当初計画
売上高	265.9	681.5	256.3%	680.0
暖簾等前営業利益	8.4	43.3	514.0%	43.2
(暖簾等前営業利益率)	3.2%	6.4%	-	6.4%
暖簾、無形資産償却	-	19.5	-	8.2
営業利益	8.4	23.8	282.6%	35.0
(営業利益率)	3.2%	3.5%	-	5.1%
営業外損益	2.0	-15.8	-792.6%	-10.0
経常利益	10.4	8.0	76.7%	25.0
(経常利益率)	3.9%	1.2%	-	3.7%
特別損益	1.1	30.1	2707.7%	36.5
税引前当期利益	11.5	38.1	329.9%	61.5
税引後当期利益	7.8	12.1	155.8%	30.0
(当期利益率)	2.9%	1.8%	-	4.4%
EBITDA	21.4	85.1	397.7%	-
1株あたり当期利益(円)	17.5	18.1	103.5%	-

1. 売上、暖簾等前の営業利益  
ビルキントンは1Qは持分利益、2Qより連結化。非継続事業会計処理(豪州)の影響も反映後、当初計画並み。
2. 暖簾償却 約91億円、  
無形固定資産償却 約103億円  
税効果(税金負債の戻し) +31億円
3. EBITDA  
前期比大幅増。暖簾等償却前利益と同様に、ほぼ想定通りの実績。

07年3月期	当初計画	:210.0円
	実績	:225.7円
08年3月期	前提	:215円

## 営業外損益、及び特別損益

1. 営業外損益	158億円(当初計画比	58億円)
金融収支	166億円	
持分法投資損益	+24億円(前半期のNHテクノの不調など)	
その他雑損益	18億円(EU経過費用	30億円)
2. 特別損益	+301億円(当初計画比	65億円)
株式売却益	+448億円	
買収関連費用	105億円	
固定資産除却損	73億円(情報システムなど)	

## 連結貸借対照表

(単位:10億円)	2006年 3月期	2007年 3月期
流動資産	288.7	465.8
(うち、現預金)	(180.7)	(160.9)
固定資産	307.2	943.1
総資産	596.0	1,409.0
負債	354.4	1,058.4
(うち、有利子負債)	(236.9)	(561.1)
資本(純資産)	238.3	350.6
負債・資本計	596.0	1,409.0
期末発行済株数(百万株)	443.0	668.4
株主資本比率	40.0%	23.9%
BPS(円)	537.9	504.6
1株当り配当(円)	6.0	6.0
ROE	3.3%	4.2%
ROA	2.0%	2.2%

ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

1. ヒルキントン 1Q末より連結化
2. CB残 230億円(MSCBは全て転換済み)
3. 期末暖簾残 2,049億円  
(EU引当金計上分 781億円を含む)  
期末無形資産残 1,770億円  
(07/3末円ポンドレート 231.9での換算ベース)

財務指標(07/3末実績vs.統合直後06/6末)

- Net D/E ratio- 1.19 (vs.1.93@ 06/6末)
- Gross D/E ratio- 1.66(vs.2.51@06/6末)
  
- Net Borrowings - 4,000億円(vs.5100億円@06/6末)
- Gross Borrowings- 5,611億円(vs.6640億円@ 06/6末)
  
- EBITDA- 851億円 (vs. 214億円@06年3月期)

財務健全性は向上

統合直後に比べて改善しております。

当期売上高、営業利益実績の事業別地域別マトリクス

売上高 (単位:10億円)	(10億円)	日本	欧州	北米	その他	合計
	建築用		109.9	152.2	25.3	32.9
自動車用		59.9	127.3	61.2	19.8	268.2
その他	情電	-	-	-	-	45.3
	繊維	-	-	-	-	33.3
	その他	-	-	-	-	14.3
		56.2	14.7	1.1	21.0	92.9
合計		226.1	294.2	87.6	73.7	681.5

営業利益 (単位:10億円)	(10億円)	日本	欧州	北米	その他	合計	営業利益率
	建築用		0.9	22.5	0.9	5.3	16.5
自動車用						13.0	4.9%
その他	情電	-	-	-	-	2.5	5.5%
	繊維	-	-	-	-	3.6	10.9%
	その他	-	-	-	-	-11.8	-82.8%
		-0.5	-6.8	0.0	1.6	-5.7	-6.1%
合計		0.4	15.7	0.9	6.9	23.8	3.5%
営業利益率		0.2%	5.3%	1.0%	9.3%	3.5%	

(注) 暖簾代、無形固定資産償却費は各地域、各セグメントに配賦済み

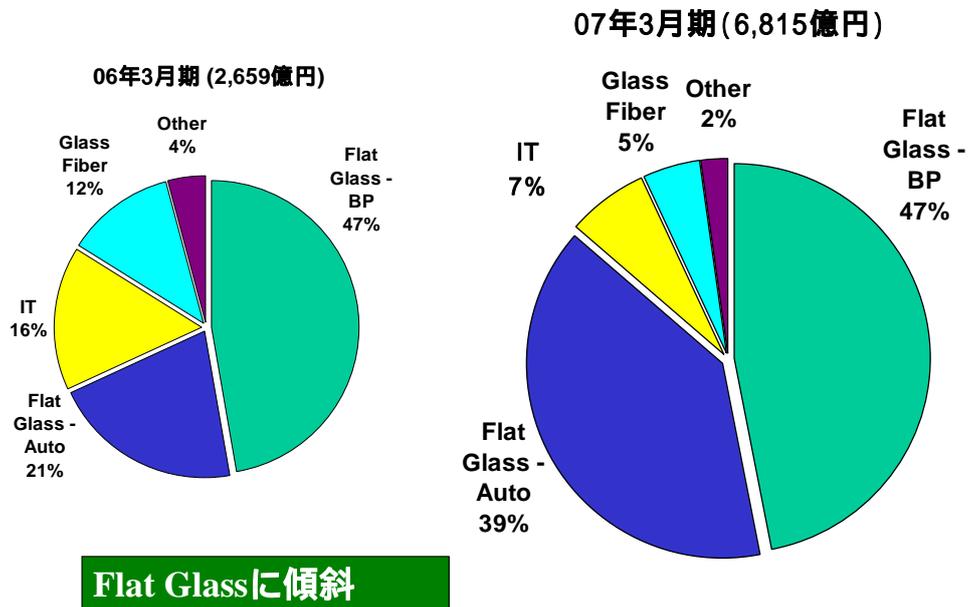
ご参考まで、事業別地域別の売上と営業利益のマトリクスです。  
暖簾代、無形固定資産償却費は各地域、各セグメントに配賦済みです。  
以上で決算数値についてのご説明を終わります。

## 新NSGグループの概要

---

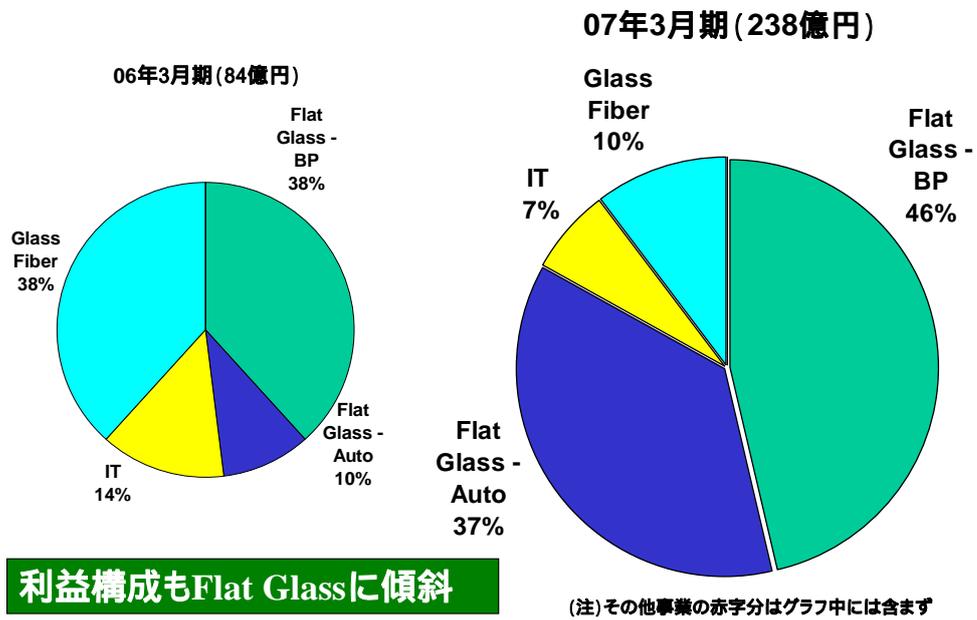
それではここからは、一部の方には既におさらいになるとは思いますが、統合後、大きく変わった新NSGグループの概要について、改めてご説明したいと思います。

統合の影響 - 事業別売上高



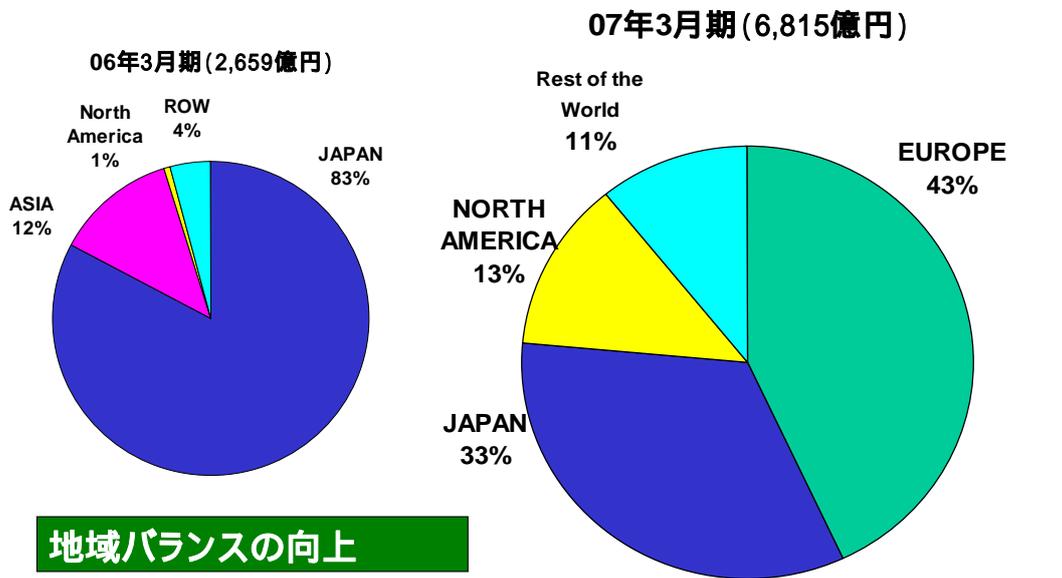
まず、昨年度の統合前と買収後の当期では、売上高、事業別の構成について大きく変わり、建築用、自動車用といったフラットガラスのウエイトが大きくなりました。

統合の影響 - 事業別営業利益



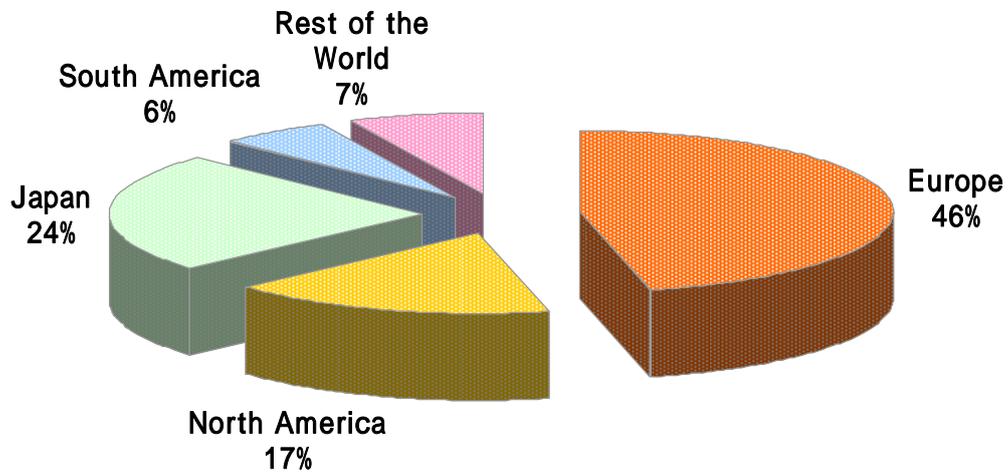
営業利益についても、金額、構成が大きく変わっています。

統合の影響 - 地域別売上高



地域別に見ますと、  
 日本と一部アジアがほとんどだったものが  
 欧州、日本、北米、南米、アジアなどと、  
 世界各地域のバランスがとれた姿となっています。

## 板ガラス事業地域別売上高比

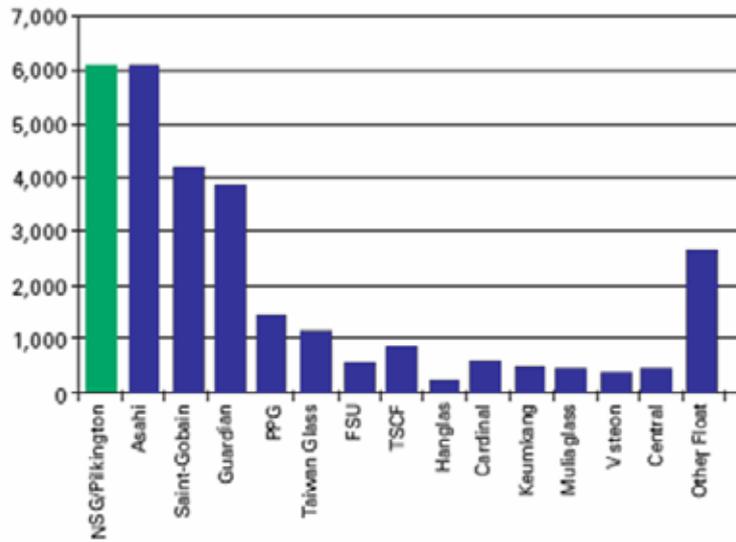


板ガラス分野で欧州が最大に

板ガラス分野での地域構成を見ますと  
欧州のウエイトが最大になっています。

## 世界の高品質フロート生産能力

(千トン/年)



Major increase in scale

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

16

既にお見せしたグラフですが、  
買収によって当社グループがトップグループに入り、当社を含む  
メジャープレイヤーのポジションが高まったといえます。

## 各事業別の概況と今期の見通し

---

次に、各事業の当期実績における概況と、今期の見通しについて順を追ってご説明します。

## 4月からの新組織について

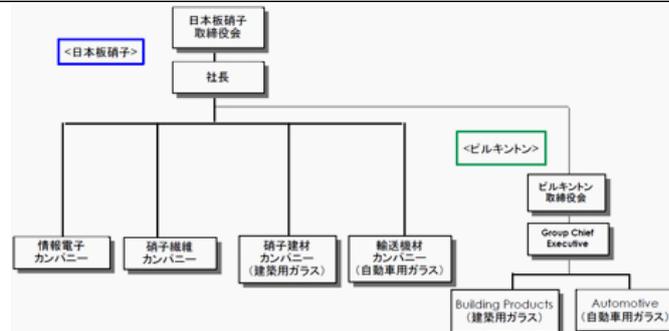
- 2007年4月より、組織改変により、NSG/Pilkingtonの全世界板ガラス事業をグローバルフラットガラス事業として統合。
- これにともないグローバル本社部門を設置
- 情報電子 + 硝子繊維事業をSpecialty Glass事業として統合
- BP部門については地域別組織
  - Europe
  - Japan
  - North America
  - South America
  - Australasia
  - South East Asia
- Automotive部門については事業別グローバル組織
  - Original equipment (OE)
  - Aftermarket (AGR)
  - Specialised Transport (Bus, Truck, Marine etc)

**Integrated Flat Glass business now operational**

まず、板ガラス分野における4月からの新組織について  
簡単にご説明します。  
次のページの図を見ながら説明いたします。

## 新組織図

2006年度末までの組織



2007年度からのグループ運営体制



(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

19

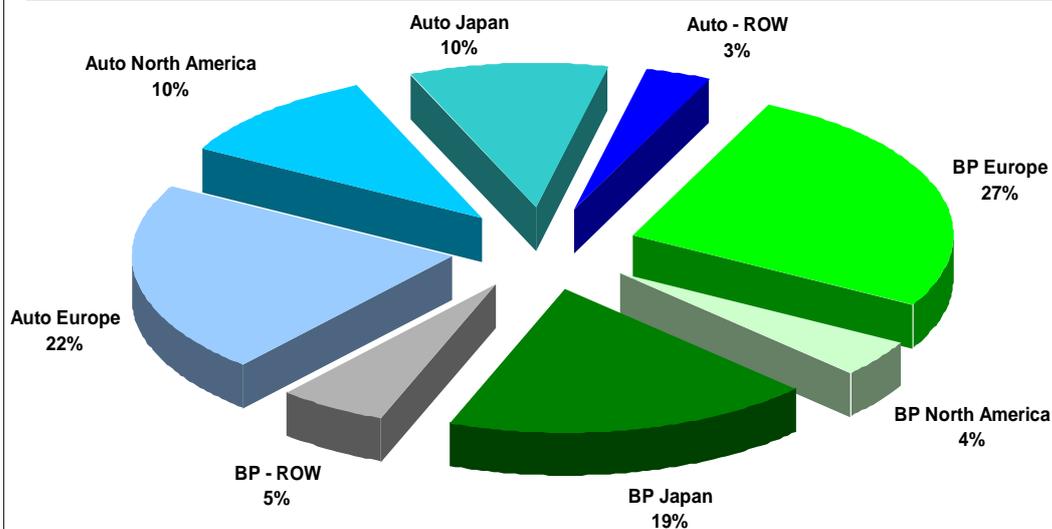
2007年4月より、組織改変により、NSG、Pilkingtonの全世界板ガラス事業をグローバル板ガラス事業として統合しました。

これにともないグローバル本社部門を設置すると同時に、情報電子、硝子繊維の各事業を機能性ガラス事業として統合しました。

BP部門については、欧州、日本、北米、などの各地域別組織と、フロート技術の統括機能、エンジニアリング統括機能を置きます。

Automotive部門については、グローバル規模での製造、技術、品質、営業、サプライチェーンの機能を設けると同時に、各国にカントリーマネージャを組織します。

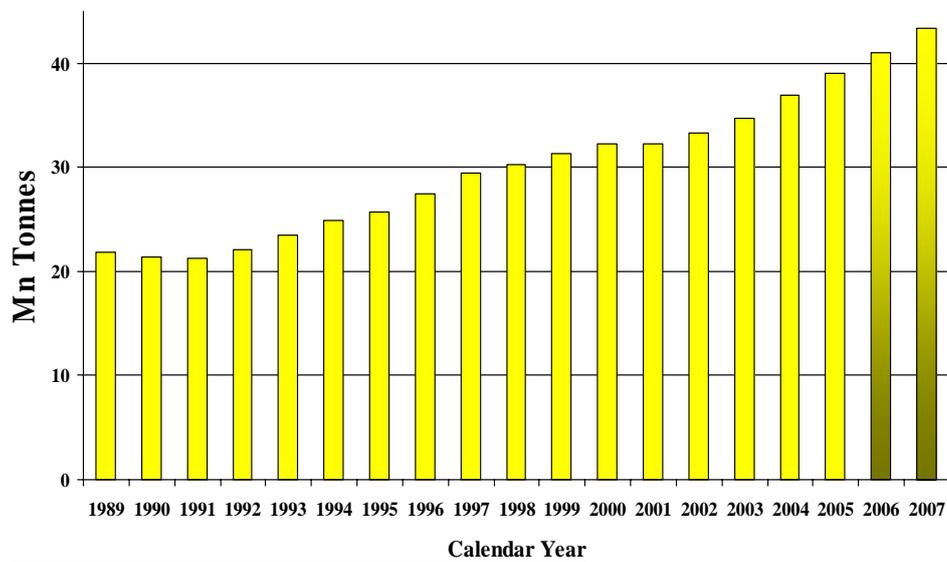
これにより、グローバル規模で、カーメーカー毎のアカウントを統一します。



**BP Europe が最大部門**

この板ガラス事業については、改めてご覧いただいた通り、欧州、日本、北米、その他と、全世界バランスよく分かれており、現状はBPのヨーロッパが最大規模となっています。

## 板ガラス需要-全世界



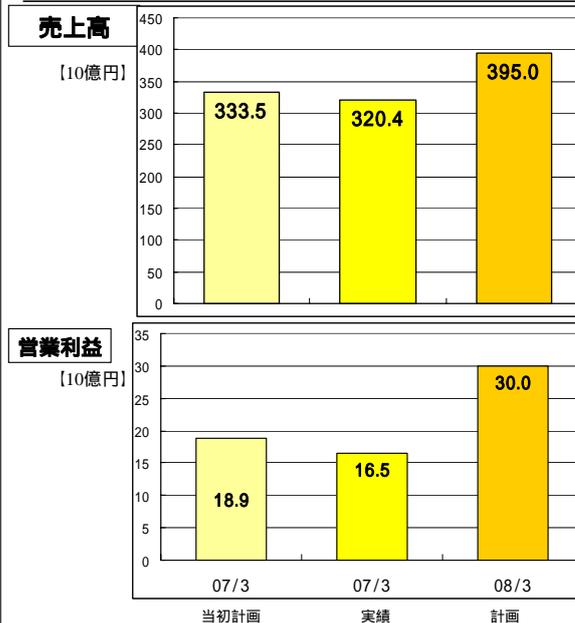
新興市場が牽引する安定的拡大

\* Worldwide including China

(C) Nippon Sheet Glass Co., Ltd. All Rights Reserved.

続いて、世界の板ガラス市場の需要と供給についてのグラフです。  
この伸びについては、新興市場での需給両面の拡大が背景にあります。

## 建築用ガラス事業 概況



< 欧州 >  
市場環境の活況により好調。ドイツ、イタリア、ホーランドなどで好業績。

< 日本 >  
高機能ガラスの出荷増あるも、重油高、型板ガラスの生産調整等の影響で減益。

< 北米 >  
国内需要弱まったが、域外への輸出(中米、中東、中国、欧州)が一部補完。

< その他 >  
南米地域が好調を牽引。

続きまして、当社のセグメント別の実績概要と見通しを申し上げます。

まず建築用ガラス事業のご説明です。

グラフは上が売上高、下が営業利益。

列は左から終わった当期の当初計画、実績、及び今期の見通しと並んでいます。

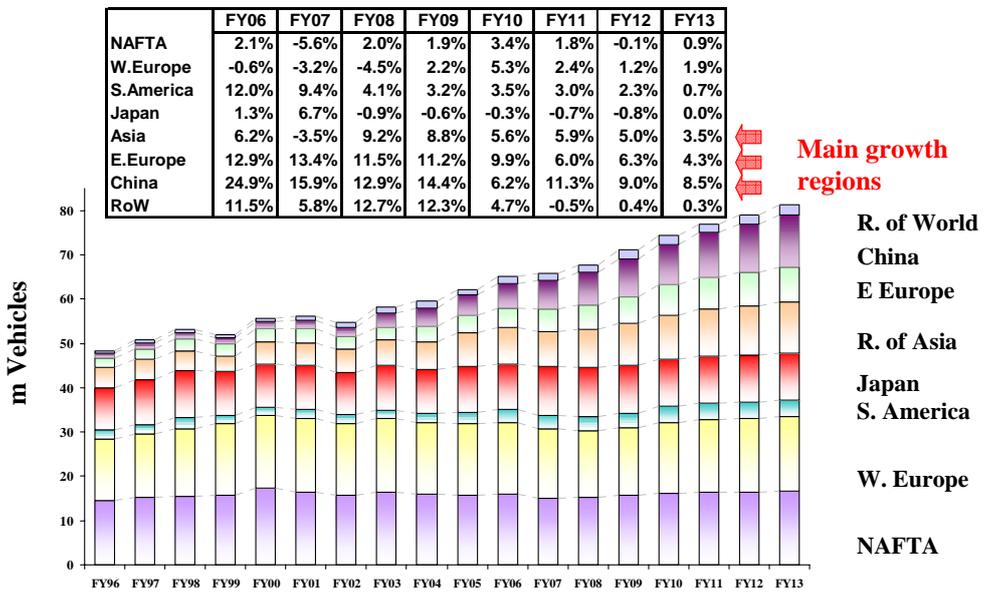
欧州は、市場環境の活況により好調。ドイツ、イタリア、ホーランドなどを中心に好業績でありました。

日本は、高機能ガラスの出荷増がありましたが、重油高、型板ガラスの生産調整等の影響で減益。

北米は、国内需要が弱まってきておりますが、中米、中東、中国、欧州等、域外への輸出が一部補完しました。

その他の地域では、南米地域が好調を牽引しております。

# 世界の乗用車組立台数(2% ~ 4.5%p.a.)

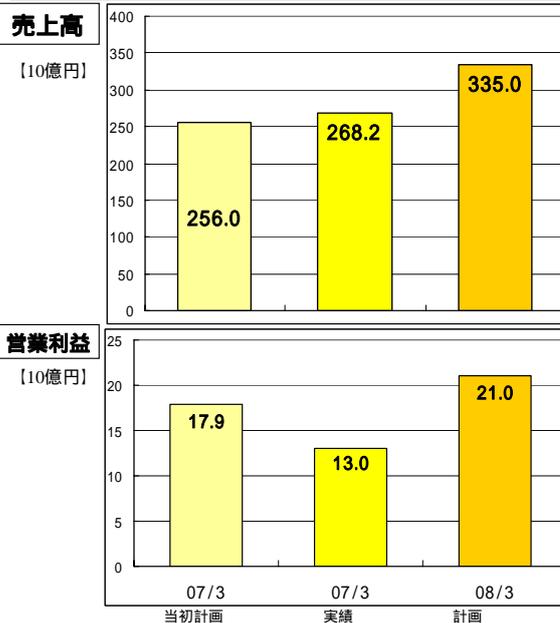


Data source = JDP Dec.06

**Vehicle build remains strong**

以前お見せした資料ですが、  
 世界の乗用車組み立て台数の推移であります。  
 アジア、東ヨーロッパ、中国などの新興地域が全体の伸びを牽引しています。

## 自動車用ガラス事業 概況



### < 欧州 >

域内自動車販売は横ばいの中、当社が納入するガラスが好調。AGR(補修ガラス)も好調。

### < 日本 >

国内自動車生産が好調継続。

### < 北米 >

OEは域内自動車生産減少の影響を受ける。AGRでは競争環境と燃料コスト増が影響。

### < その他 >

南米地域が好調を牽引。  
中国では市場拡大中。

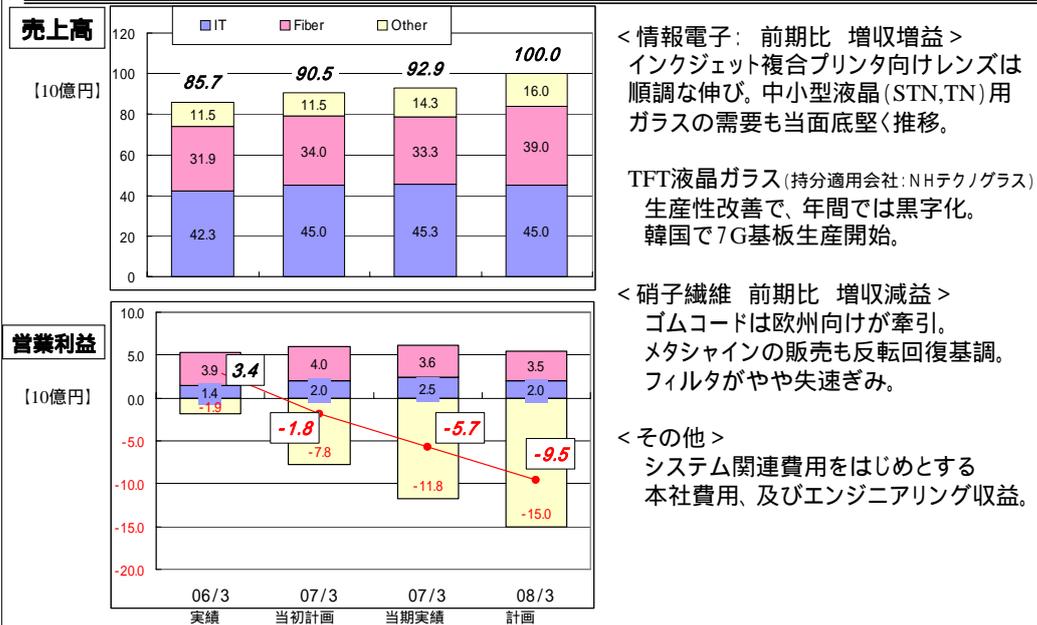
さて、当社の自動車用ガラス事業の概況ですが、  
欧州では、域内自動車販売は横ばいの中、当社が納入する新車モデルのガラスが好調でありました。  
補修ガラスについても好調に推移しております。

日本では、国内自動車生産が好調を継続しており、当社の業績も上向いています。

北米では、OEは域内自動車生産減少の影響を受けております。  
AGRでは競争環境と燃料コスト増が若干影響しています。

その他地域では、南米地域が好調を牽引しました。  
また、中国では市場が拡大中でありまして。

その他事業(情報電子、硝子繊維、他) 概況



< 情報電子: 前期比 増収増益 >  
 インクジェット複合プリンタ向けレンズは順調な伸び。中小型液晶(STN,TN)用ガラスの需要も当面底堅く推移。

TFT液晶ガラス(持分適用会社: NHテクノグラス)  
 生産性改善で、年間では黒字化。  
 韓国で7G基板生産開始。

< 硝子繊維 前期比 増収減益 >  
 ゴムコードは欧州向けが牽引。  
 メタシャインの販売も反転回復基調。  
 フィルタがやや失速済み。

< その他 >  
 システム関連費用をはじめとする  
 本社費用、及びエンジニアリング収益。

最後に情報電子、硝子繊維など、その他の事業の概況です。

情報電子は、前期比で増収増益となりました。

中でも、インクジェット複合プリンタ向けレンズは順調な伸びを見せています。  
 STN, TNなどの中小型液晶用ガラスの需要も当面底堅く推移しています。

また、TFT液晶ガラスを生産する当社持分適用会社のNHテクノグラスについては、生産性改善により、年間では黒字化しました。

またこの春から韓国で7Gの基板の生産を開始しております。

次に硝子繊維は、前期比で増収、利益はやや減益でした。

中でもゴムコードは欧州向けが牽引しているほか、  
 メタシャインの販売も反転し、回復基調にあります。  
 フィルタ関連が若干弱含んでいる面があります。

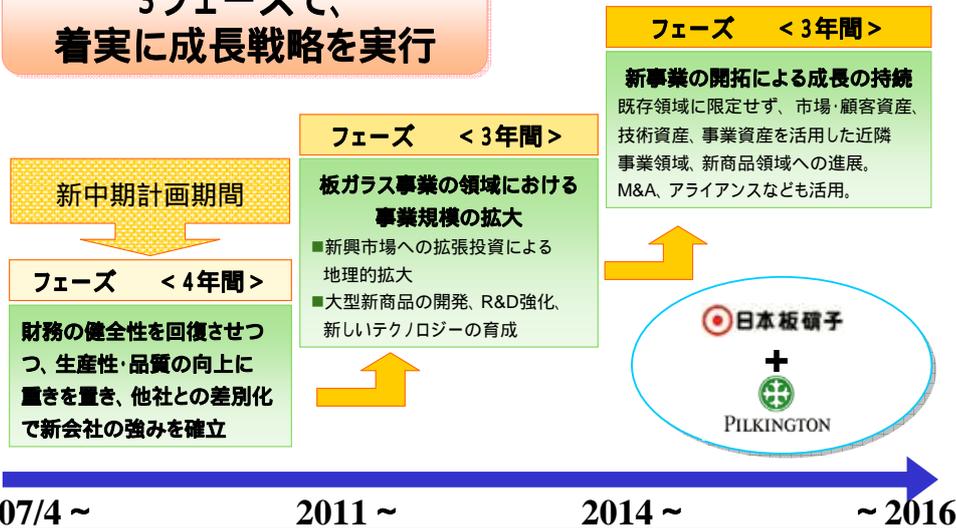
最後にその他部門ですが、システム関連費用をはじめとする  
 本社費用、及びエンジニアリング収益が、ここに入ります。

## 中長期戦略の中での位置づけ

次に、こういった状況の中で  
長期戦略のおさらいと、これを踏まえての取り組みについて  
改めてご説明します。

## 長期ビジョン

3フェーズで、  
着実に成長戦略を実行



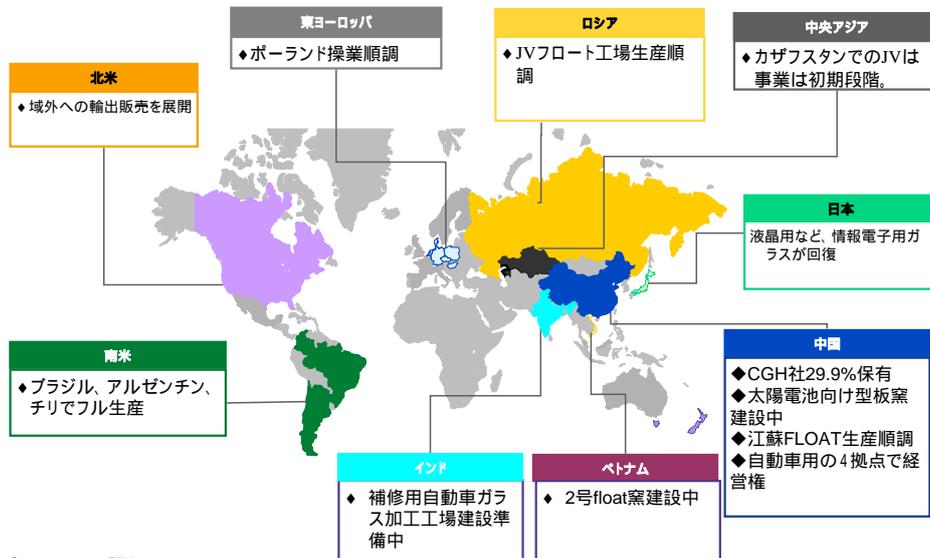
長期ビジョンについては昨年秋にお話致しました。

今回の新中期計画は、フェーズ1にあたります。

確実にこの目標を達成し、フェーズ2に移っていく土台を作っていきます。

この長期ビジョンの中では、新興市場への具体的展開はフェーズ2になりますが、先んじて手を打つべきところは打っております。

## 新興市場での展開



Source: Pilkington  
 Note:  
 1 Including manufacturing facilities of Pilkington's associates and strategic partners

ごらんの通り、BRICS地域を初めとする新興諸国への取り組みを進めています。

一例を申し上げますと、中国では  
 CGH社29.9%保有  
 太陽電池向け型板窯 建設中  
 江蘇FLOAT生産順調  
 自動車用の4拠点で経営権  
 など、着々と展開を進めています。

## 今期の業績見通し

---

では最後に、今期の業績見通しです。

## 今期連結業績予想 - 1

(単位:10億円)	07年3月期実績	08年3月期見通し	11年3月期中期計画
(円ポンド換算レート)	¥225.7	¥215	¥200
<b>売上高</b>	<b>681.5</b>	<b>830.0</b>	<b>900.0</b>
<b>暖簾等償却前 営業利益</b>	<b>43.6</b>	<b>66.7</b>	<b>75.0</b>
暖簾等償却費	-19.5	-24.7	-20.0
<b>営業利益</b>	<b>23.8</b>	<b>42.0</b>	<b>55.0</b>
営業外収支	-15.8	-18.0	
<b>経常利益</b>	<b>8.0</b>	<b>24.0</b>	
特別損益	30.0	10.0	
<b>税前利益</b>	<b>38.1</b>	<b>34.0</b>	<b>50.0</b>
<b>当期純利益</b>	<b>12.1</b>	<b>15.0</b>	<b>31.0</b>
<b>暖簾等償却前 当期利益</b>	<b><u>28.5</u></b>	<b><u>35.8</u></b>	<b><u>46.0</u></b>
EBITDA	85.1	116.7	125.0
EPS(円)	18.1	22.5	46.4
<b>暖簾等償却前 EPS(円)</b>	<b><u>42.7</u></b>	<b><u>53.6</u></b>	<b><u>68.9</u></b>

中期計画へ着実な前進。中期計画への暖簾償却増の影響は対策を検討、実施。

30

今期は、ピルキントンの第1四半期の業績が加算されることと、欧州での好調な業績を反映し、暖簾の増加や引当関連の費用増はありますが、ご覧の通りの業績を見込んでおります。

暖簾償却が増えてしまっておりますが、ノンキャッシュの項目である暖簾償却費、無形資産償却費を除いたベースでは、中期計画に向けて着実な前進を続けております。

また、中期計画段階での暖簾増の影響は40億円弱でありますので、この分についてはカバーできる対策などを柔軟に検討しつつ、実行していきたいと考えています。

今期連結業績予想 - 2 セグメント別内訳

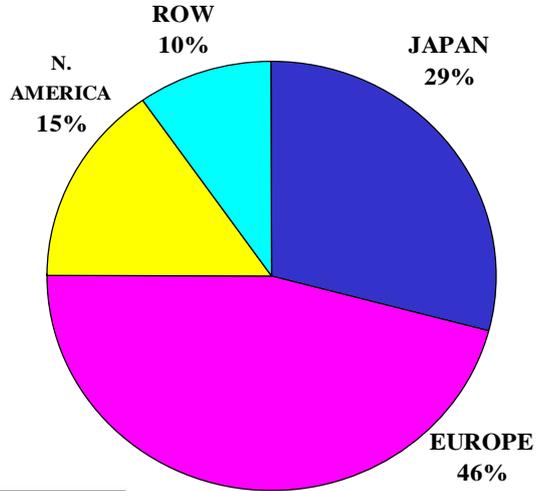
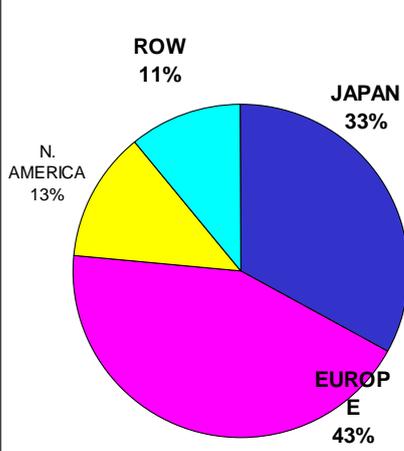
(10億円)		07年3月期 実績	08年3月期 見通し	11年3月期 中期計画	
売上高	建築	320.4	395.0	435.0	
	自動車	268.2	335.0	365.0	
	その他	情報電子	45.3	45.0	60.0
		硝子繊維	33.3	39.0	40.0
		その他	14.3	16.0	0.0
		92.9	100.0	100.0	
	計	681.5	830.0	900.0	
営業利益	建築	16.5	30.0	53.5	
	自動車	13.0	21.0		
	その他	情報電子	2.5	2.5	10.0
		硝子繊維	3.6	3.5	
		その他	-11.8	-15.0	-8.5
		-5.7	-9.0	1.5	
	計	23.8	42.0	55.0	

ご参考まで、今期見通しも含めたセグメント別の売上と営業利益のまとめです。

今期見通し - 地域別売上高

08年3月期 (8,300億円)

07年3月期 (6,815億円)



Pilkingtong社連結9ヶ月 12ヶ月

ご参考までに、地域別の売り上げ高です。

## まとめ

---

1. 事業規模の飛躍的拡大と、板ガラス事業の組織統合が順調にスタート。
2. 欧州、新興地域をはじめ、好況は継続。
3. 中期計画での目標達成を目指す。

**最後に、私からのまとめとなります。**

**まず、冒頭に申し上げた通り、買収によって事業規模の飛躍的拡大と、今期から、板ガラス事業の組織統合が順調にスタートしたこと。**

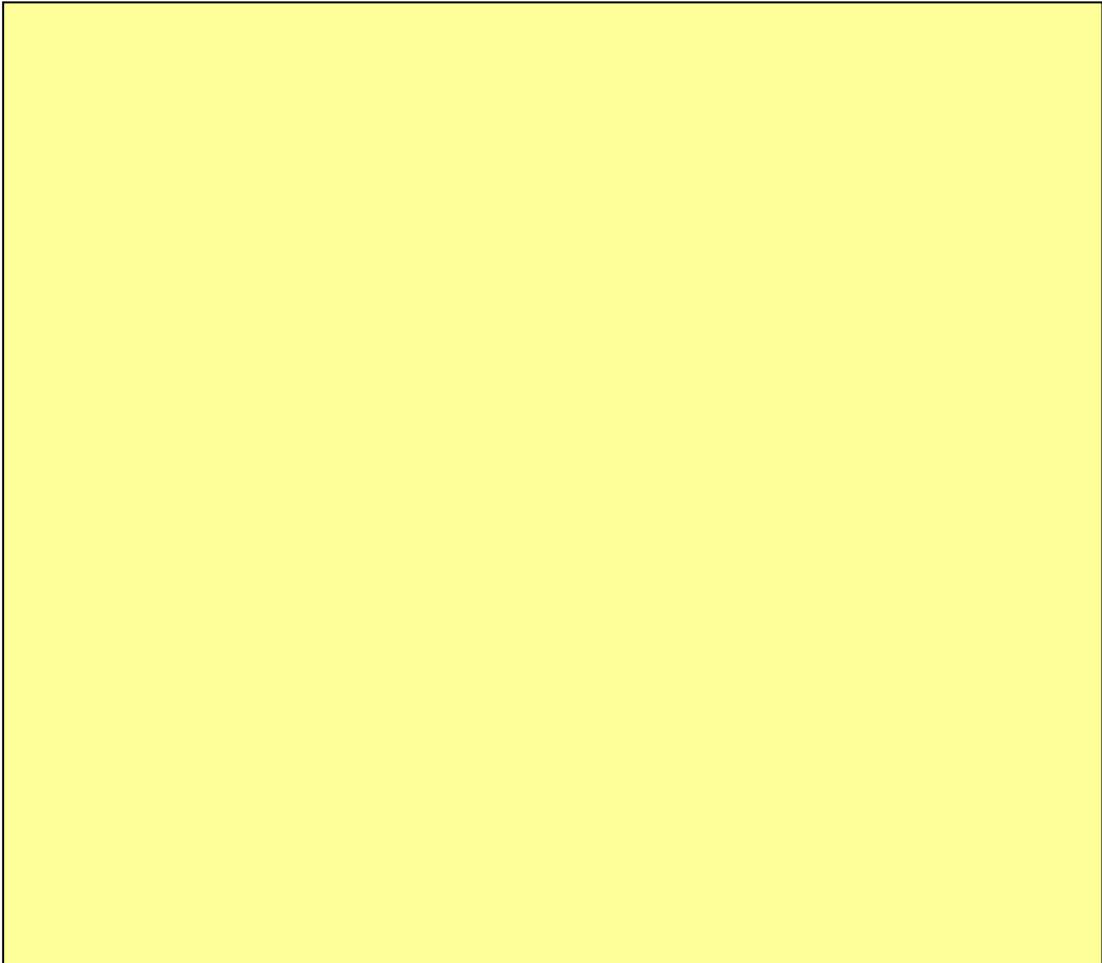
**次に、欧州、新興地域をはじめ、好況は継続中であること。**

**そして最後に、今期はEU過料引当の影響はありますが、**

**追加施策を検討し、実施することによって、中期計画での目標達成を目指す点に変化はない、ということをお申し上げて本日のご説明を終わりたいと思います。**

< 参考資料 >

---

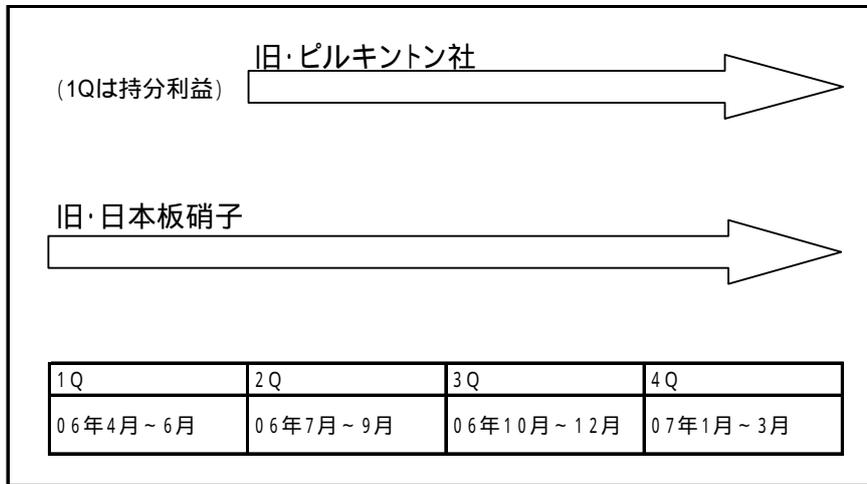


< 参考 > 前提指標

		06/3 通期実績	06/9 上期実績	07/3 通期実績	08/3 通期 計画前提値
円ポンドレート(P/L換算) (B/S換算)	(円/GBP)	205.2	221.3	225.7 231.9	215.0
減価償却費 (注)	(10億円)	13.0	19.8	41.8	50.0
設備投資	(10億円)	21.2	18.4	52.5	50.0
研究開発費	(10億円)	7.6	5.1	13.7	-
フリーキャッシュフロー	(10億円)	3.3	-218.9	-246.3	-
有利子負債	(10億円)	236.9	636.1	561.1	-
人員	(人)	14,181	38,578	39,025	-

(注)ピルキントン社買収に関する暖簾代、無形固定資産償却  
(07/3実績:約195億円)を除く。

<参考> 07年3月期決算の前提  
当期の損益計算書上の連結期間



08年3月期以降は、ピルキントン社業績が年間フルに寄与

<参考> 07年3月期決算の前提  
事業セグメントの変更

前期までの  
事業セグメント

当期以降の  
事業セグメント

ビルキントン社上場時  
の事業セグメント

硝子・建材事業

建築用ガラス事業

Building Products

自動車用ガラス事業

Automotive Products

情報電子事業

その他の事業

Others

硝子繊維事業

その他の事業

同様に、地域別セグメントも変更

## <参考> EU過料引き当てについて

### 1. 経緯

ピルキントン社による欧州委員会 (EU) 独禁法違反疑義に基づき、現地会計基準の要請に従い、本件による将来リスクとして想定される過料を引当て。金額の算定はEUから示されている過料算定ガイドラインなど、現時点での情報から総合的に判断して算出。手続き上は今後更に進展があり、EUの正式決定は9～12ヶ月後を想定。現時点でEUからは、過料額は示されていない。

### 2. 経理処理、暖簾への影響

推定過料額 総額 約3.5億ポンド(230円換算で約800億円)を暖簾計上し、既存分の暖簾と合わせて20年定額償却。

<07年3月期業績への影響>

暖簾償却増(営業費用)として約30億円

(08年3月期以降20年間は年間約40億円)

3.5億ポンドの割引現在価値の当期分経過費用(雑損失)として約30億円

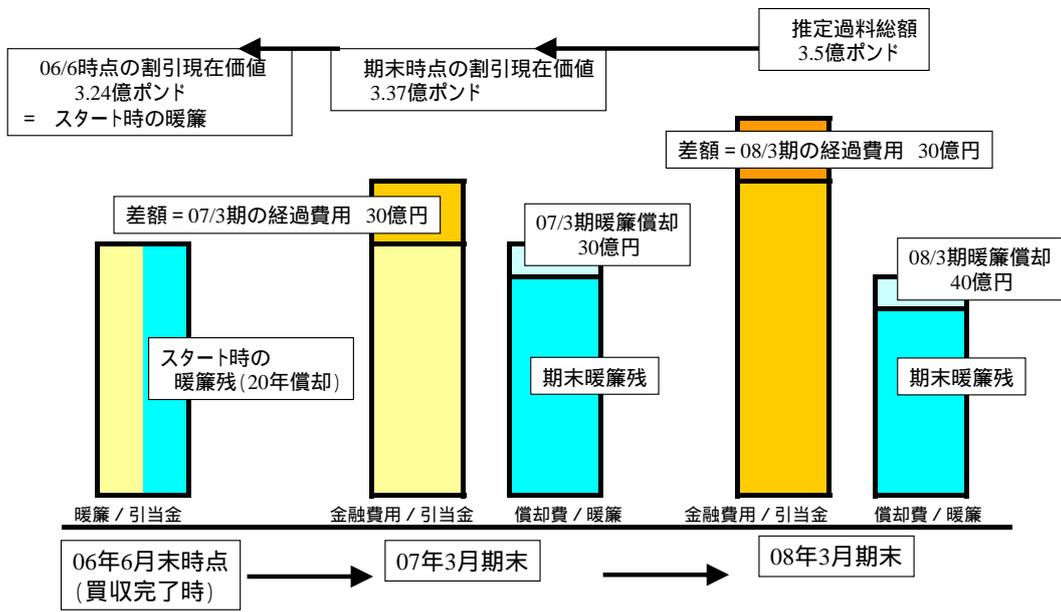
(08年3月期にも約30億円発生見込みだが、09年3月期以降は発生しない)

次に、去る5月22日に開示したEUの過料引き当てについて、非常に難解である点を認識しておりますので、ここに改めてご説明します。

概要は記載の通りですが、今回のEUの疑義に関してはまだ手続き中であり、当社としては内容についてのコメントが出来ない事情がありますが、今回の処理は、それとは別に現地国際会計基準の会計的な要請に基づくものであることをご理解下さい。

詳細の経理処理については、資料の後ろにある参考資料のグラフでご説明します。

<参考> EU引当金の暖簾計上、割引現在価値の当期経過費用



推定過料総額 3.5億ポンド (支払い時点: 08年末を想定)  
 の07年3月期末時点の割引現在価値 3.37億ポンド  
 の06/6時点の割引現在価値 3.24億ポンド

これがスタート時の暖簾。

- 07年3月期の計上費用は、 - の差額の経過費用 (30億円) と暖簾償却 (30億円)。
- 08年3月期の計上費用は、 - の差額の経過費用 (30億円) と暖簾償却 (40億円)。

<参考> 暖簾及び無形固定資産計上額の変化について

(単位:百万ポンド)	2006年6月時点 (当初計画)	2006年9月時点 (中間決算時点の見通し)	2007年3月(最終)
暖簾 (EU過料引当分を含む)	1,100	630	1,094
無形固定資産	----	994	831
営業費用償却される 資産総額( + )	1,100	1,624	1,925
繰延税金負債 ( x30% ) (当期利益での戻し)	----	298	249
総額 ( + )	1,100	1,326	1,676
20年間の 平均償却額	55	66.3	83.8

金額はいづれも、2006年6月末の償却開始時点の金額。  
各期の償却費計上は、都度その期間の円換算レートにて行う。

このEUの追加暖簾分を含めた、現時点での最終的な暖簾、無形固定資産の計上額を一覧にしております。

ベースの金額がポンド建てですので、表示金額は百万ポンドになっている点にご注意下さい。

決算毎の償却額は、都度その期間の決算換算レートを使用しますので、換算レートによって円ベースの金額は変わります。

< 参考 > 暖簾、無形固定資産の項目と償却年数

暖簾	償却年数
暖簾	20

無形固定資産の項目	償却年数
Brand	20
Know-how	10
Customer Relationship	1 ~ 20
Developed technology	7 ~ 15
Other Brands	10
In-process R&D	10 ~ 15
License	11

無形固定資産は項目によって償却年数が異なる(1~20年)ため、年度償却額は初年度が最大で、順次減少する。FY11(2011年3月期)は190億円程度を想定。(1ポンド200円ベースでの当期利益への影響額。)

暖簾、無形固定資産の項目と償却年数の一覧です。  
 暖簾は20年定額償却。無形固定資産も定額ですが、  
 項目によって償却年数が異なる(1~20年)ため、  
 年度償却額は初年度が最大で、順次減少する。  
 FY11(2011年3月期)は純利益に影響する額として190億円程度を想定。

<参考> 暖簾、無形資産償却の業績への影響の変化

(単位:10億円)	07/3期 当初計画	07/3期 実績	08/3期 見通し
	PLK社 9ヶ月分	PLK社 9ヶ月分	PLK社 12ヶ月分寄与
円ポンド換算レート	¥210	¥225.7	¥215
暖簾償却費 (EU引当分を含む)	8.2	9.1	11.6
無形固定資産償却費	-	10.3	13.1
償却費合計 ( + ) (営業利益への影響)	8.2	19.5	24.7
税金負債の戻し ( ×30%)	-	+ 3.1	+3.9
合計 ( + ) (当期利益への影響)	8.2	16.4	20.8

(注)無形固定資産は、項目によって1～20年で償却を行うため、次年度以降は順次償却費が減額される。  
**FY11**(2011年3月期)では当期利益への影響を190億円程度と想定。



直近の決算、見通しに与える暖簾償却、無形資産償却の業績への影響についてあらわしております。  
 金額単位は10億円です。

これで暖簾、無形資産についてのご説明はおわり、  
 本編の業績のご説明に戻ります。

(スライド p. 6 損益計算書に戻る)

< 参考 > 暖簾、無形資産償却の当期業績への影響の変化  
(06年9月期中間決算説明会時の資料)

(単位:10億円)	当初計画 (06年7月)		中間実績時の見直し (06年11月公表)(注2)	
	PLK社9ヶ月分	Pro Forma 1年換算 (注1)	PLK社9ヶ月分	Pro Forma 1年換算 (注1)
円ポンド換算レート	¥210		¥221.25	
暖簾償却費	8.2	11.0	4.1	5.5
無形固定資産償却費(注3)	-	-	12.2	16.3
償却費合計(営業利益への影響)	8.2	11.0	16.3	21.8
税金負債の戻し	-	-	+ 3.7	+ 4.9
合計(当期利益への影響)	8.2	11.0	12.6	16.9

(注1) Pro Forma 1年換算 = ビルキントン社を12ヶ月間連結処理した仮定での試算

(注2) 金額は9/末為替レートによる換算であり、以後、決算期末レートによって再度換算を行う。

(注3) 無形固定資産は、項目によって1~20年で償却を行うため、次年度以降は順次償却費が減額される。

## ご注意

---

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(日本、欧米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。